

こえ
聲

私のいいこと



平野 紗代さん
(下延生)

行政区の資源物回収

私の地区では、資源物を集めて、それを行政区の活動資金の一部にしています。地区の中には反対の方もいたようですが、行政区全体の補助金としています。以前と違い、新聞を取る家が減り、ペットボトルが多く回収業者からのお金は期待できなくなりました。しかし、芳賀町には手厚い補助金の制度があるので、続けられているのだと思います。

ペットボトルも空き缶も紙類も、再利用されることは環境にも良いことです。プラごみの分別回収もそうですが、少しずつでもできることをして、持続可能な社会(SDGs)をと思います。

生活と地域と環境がシンクロするような、このような仕組みがたくさんできれば、おもしろい町になるのではないかと思います。

町の方向性を考える



廣木 晋市さん
(給部)

私は、『田舎＝自然を生かした観光産業』というスキームには賛成しません。それ自体が先見性の高いビジネスモデルでもありません。地理的特性を考えるなら最良はベッドタウン化だと思います。生活に大切な安全は街灯、カメラの設置などをすすめ、町民へのホスピタリティ(サービス)では、民間の活力を上手く活かし、町の休眠資産(一部しか使われてない集会所や旧学校跡地も含め)を商いの場として最大限提供する。適材適所、民間企業と町政のマッチングをうまく活かせば、財政のスリム化も十分見込めます。同時に、次世代産業への誘致を積極的に行っていくのも必須と考えます。それにより、カリフォルニア州のシリコンバレーのような未来も見えるかもしれません。

最後に、町政では『前例がないから却下』なんて壁はつくらぬようお願いします(笑)

地域と共に生きる



細野 ミ子さん
(東水沼)

芳賀町はふれあいタクシーがあり、子どもたちの勧めで自動車免許を返納いたしました。自由に行動できたのが出来なくなり、一気に年を取ったような気がします。その時、子ども会の親子さんと一緒に地域の行事に参加しました。それは花とサツマイモの植栽でした。久しぶりに子たちと触れ合い、疲れも忘れるほど楽しいひと時でした。それからというもの植栽地の花や草が気になり近所の友人と散歩がてら水やりや草むしりを行っていたところ「お疲れさん、おかげさまで花も元気に喜んでますよ。」と自治会長さんが声をかけてくださいました。それから数日後、植栽地に行ってみると私たちが疲れて縁石に腰かけていたのを知ってかベンチが置いてありました。そっと置かれていたベンチに大きな優しさ、自治会長さんの気遣いを実感いたしました。

芳賀町全体が思いやりに溢れる町になることを願っています。